

【生薬名】 防風 LEDEBOURIELLAE RADIX

【起源植物】 ボウフウ *Ledebouriella seseloides*



【科名】 セリ科 *Umbelliferae*

【別名】 真防風、防風一名銅芸(神農本草経)

【薬用部分】 根及び根茎

【主成分】 精油、フラクタン類、加水配糖体、シミフギンなど

【薬性】 気味辛甘微温は、帰経は膀胱肝脾に属す

【効能】 ●祛風解表・祛湿解経・止瀉止血

●祛風の主薬で風寒・風熱・風湿など外感病に用いる

●その薬性は穏やかで発汗力は麻黄桂枝より弱く羌活ほど辛燥でないので風薬中の潤剤といわれる、感冒には荊芥と用いる

●1日3～9<sup>グラム</sup>

●黄耆と共に用いると止汗の作用がある、玉屏風散

●発汗、解熱、鎮痛薬として感冒、頭痛、発熱して無感、関節痛、四肢拘攣、破傷風などに応用する

【出典】 ●治大風頭眩痛。惡風風邪。目盲無所見。風行周身。骨節疼痺煩滿。久服輕身。(神農本草経中品)

●防風 甘温、能く頭暈を除き、骨節痺疼、諸風口禁。(薬性歌)

●療骨節疼痺、偏頭痛、風赤眼む、四肢攣急、脊痛項強、不可回顧。(一本堂薬選)

【備考】 ●市場品はすべて中国からの輸入品である

●以前は供給が少なく浜防風を防風の代用として使っていたが、近年、供給増加により正品が使われるようになった

【処方例】 ●桂枝芍薬知母湯、侯氏黒散、防風通聖散、玉屏風散、荊芥連翹湯・十味敗毒湯・川芎茶調散・治頭痛一方・疎経活血湯・釣藤散